

1 優勢勝ちの判定基準

- (1) 団体試合は「技あり」または「僅差」以上とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
- (2) 個人試合は「技あり」以上とする。技による評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。

2 競技方法（団体試合）

- (1) トーナメント戦の勝敗は次による。
 - ① 判定基準
 - * 選手対選手それぞれの試合の勝敗は「技あり」または「僅差」以上とする。
 - * 「僅差」は指導差2とする。
 - ② 「技の内容」と「指導」の重み
 - * 【一本＝反則勝ち＞技あり＞僅差】の順とする。
 - ③ 団体試合のチーム対チームの勝敗の決定
 - 以下の項目に従って勝敗を決定する。
 - (ア) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - (イ) (ア)で同等の場合は「一本」による勝ちが多いチームを勝ちとする。
 - * ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。
 - (ウ) (イ)で同等の場合は「技あり」による勝ちが多いチームを勝ちとする。
 - (エ) (ウ)で同等の場合は代表戦を行う。
 - * 代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。
 - * 代表戦における優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「僅差」以上とする。
 - ただし勝敗が決しない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）を行う。延長戦の判定基準・実施方法は個人試合に準ずる。

【補足説明】 代表戦で勝敗が決しない場合の具体的な例

- 1 代表戦が終了した時点で技による得点差がなく、指導差もない（0－0）、あるいは 指導差1（2－1または1－0）の場合は延長戦を行う。
- 2 延長戦では、技による得点があった時点で試合終了。
- 3 延長戦で片方に指導が与えられて指導の数の差がなくなった場合は試合続行。
 - 1－0 → 1－1
 - 2－1 → 2－2
- 4 延長戦で指導が与えられて指導の数の差がついた場合は、その時点で試合終了。
 - 0－0 → 1－0 （1の負け）
 - 1－0 → 2－0 （2の負け）
 - 2－1 → 3－1 （3の反則負け）
- 5 延長戦で両者に同時に指導が与えられた場合、指導の数の多いほうが負け。
 - 1－0 → 2－1 （2の負け）
 - 2－1 → 3－2 （3の反則負け）

女子の帯について

平成29年度全国高等学校柔道選手権大会（H30.3）以降の高体連全国大会は白線のない黒帯を着用となります。（29年度インターハイは白線入りの帯）

北信越は31年度大会より採用し、29・30年度は白線なし・ありどちらも可となります。長野県内大会も同様にしたいと思います。